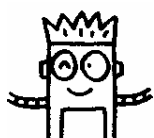


昔のことが、どうしてわかるの



ぶんけんしりょう 民俗資料 こうこ
文献資料・民俗資料・考古資料を調べることで、
わかるんだよ。

歴史の資料には、3種類ある

昔のことを調べるときは、いろいろな資料を利用します。利用する資料は、文献資料・民俗資料・考古資料の3種類に、大きくわけることができます。

文献資料：文字で記録されたもの。昔の朝廷^{ちやうてい}や役所の記録・文書、歴史書、日記、手紙のように、紙に書かれたもののほか、板に書かれたもの、金属・石にきざまれたものもある。

民俗資料：風俗^{ふうぞく}、習慣^{しゅうかん}（ならわし）、伝説、民話、お祭り、物をつくる技術といった形で、古くから受けつがれてきたもの。

考古資料：建物・集落・墓・ごみ捨て場のあと、木・石・骨^{ほね}・ねん土・金属などでつくられた道具、絵、彫刻^{ちやうこく}など、昔の人々の活動のあとが残っているもの。

はっきりと区別するのはむずかしい

3種類といっても、はっきりと区別するのがむずかしいものもあります。たとえば、民具（ふだんの生活に使った手づくりの道具）は、民俗資料でも、考古資料でもあります。木簡^{もっかん}（細長い板に文字を書いたもの）や、金属の器や鉄剣^{てつけん}・石碑^{せきひ}などに文字が書いてあるものは、文献資料でも、考古資料でもあります。

古墳時代までは、文献資料がほとんどない

古墳時代までは、日本に文字がなかったので、鉄剣などにきざまれた文字^{のぞ}を除いては、文献資料がありません。ですから、「魏志倭人伝^{ぎしわじんてん}」など、昔の日本のことを書いてある中国の文献資料を、調べることになります。